

巻頭言

院長 遠藤 一 靖

この度、仙台市立病院医学雑誌第 25 巻が刊行されることになりました。23 論文の投稿をいただき、原著 7 編、症例報告 11 編、コ・メディカルレポート 5 編、救命救急センター症例報告 5 編が収められています。いずれも当院での多忙な日常診療を通じて得られた貴重な経験、症例を纏めたものであり、その努力に敬意を表します。

特に、研修医よりの投稿が多かったのは大変喜ばしいことです。研修医諸君にとっては、おそらく初めての論文作成であろうし、その分苦労も多く、指導医の力も多々あったと思われます。症例報告においては、しっかり診療し、厳しい目で振り返り、問題点を見出し、文献で調べることが必要になります。これらの作業は臨床医がいつも念頭に置かなければならない診療の根幹をなすものです。当院の臨床研修制度は昭和 57 年 2 月 18 日付で当時の厚生省より臨床研修指定病院に指定されてから 23 年が経過しています。この間、当院で受け入れた研修医は 200 名以上になります。昨年 5 月からは新臨床研修制度になり、必修化 1 年生の研修医を 14 名迎え、早いもので 1 年が過ぎました。以前とは全く異なる新しいプログラムで行なうことになり、病院も指導医も手探りでスタートしましたが、研修医諸君は真摯な態度で頑張っており各指導医の評価も高いと聞いています。以前のプログラムに比して、短期間で渡り鳥のようにローテートしなければならない、指導医の負担が増えた、など現場からの問題点も指摘されており、ローテートする診療科を絞るべきなどの声も出ているのも事実です。今後、制度のあり方の議論が出てくると思われますが、当面は当院のプログラムをその都度検証し、本院の特質、機能を研修内容に十分に反映させ可能な限り改良していきたいと考えています。当誌は研修医に向け門戸を広げていますので、研修充実の一環として貴重な経験を積極的に投稿していただきたいと思っています。

また、当誌を各診療科の診療実績の発表の場に活用して医療の質の向上にも役立たせていただきたいと願っています。昨年 2 月医療機能評価の更新の認定を受けることができましたが、新しい機能評価で問われている中で特に印象的であったのは、診療の質に関する事項でした。医療提供がきちんとした道筋に沿って行なわれたか、また、患者さんの病態に対してどのような効果をもたらしたのか、などが重要視され、その要求度も拡大しつつあります。具体的には、診療の点では診療科別、疾患別での生存率、死亡率、疾患の治癒率や改善率、症状改善、医療に対する患者の満足度などを評価することであり、これらを臨床指標 (clinical indicator) として各分野で数量化していくことが求められています。院内組織的には診療録のレビュー、死亡統計、死亡症例検討会などを充実させることが必要になり、重要なのは病院としてそれらが潤滑に機能するよう、質の確保と質の向上を旨とする「内部管理」が求められていることです。これらの点からも、今後、当誌の役割は拡大していくことになるでしょう。

当誌の益々の発展を願っています。